

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	売掛金
貸倒引当金	未収入金	立替金	仮払法人税等
仮払消費税	備品	備品減価償却累計額	借入金
仮受消費税	未払法人税等	未払消費税	売上
雑益	固定資産売却益	貸倒引当金繰入	貸倒損失
発送費	減価償却費	旅費交通費	雑損
支払利息	固定資産売却損	法人税等	現金過不足

1. 商品を販売し、商品とともに納品書兼請求書の原本を発送し、代金の全額を掛けとして処理した。

納品書兼請求書(控)			
山都物産 御中		株式会社CPA	
商品名	数量	単価	金額
電卓	50	7,800	¥ 390,000
簿記検定対策問題集	100	1,400	¥ 140,000
			小計 ¥ 530,000
			消費税 ¥ 53,000
			合計金額 ¥ 583,000
2021年3月10日までに合計額を下記の口座へお振込み下さい。 日商銀行熊本支店 当座 1234567 カ) シーピーエー			

2. 期首に不用となった備品(取得原価: ¥1,200,000、償却方法: 定額法、耐用年数: 5年、残存価額: ゼロ、経過年数3年7か月)を売却し、売却代金¥300,000は後日受取ることになっている。
3. 現金過不足¥12,000(借方残)として処理していたが、決算日において、発送費¥5,400と従業員が立替払いしていた旅費交通費¥8,800の清算について、記入漏れであることが判明した。残額は原因不明であるため、雑損または雑益として処理する。
4. 取引銀行から借り入れていた¥3,600,000の支払期日が到来したため、元利合計を普通預金口座から返済した。なお、借入にともなう利率は年2.92%であり、借入期間は300日であった。利息は1年を365日として日割計算による。
5. 得意先宇都宮商店の倒産により、同店に対する売掛金(前期販売分)¥300,000が貸倒れとなった。貸倒引当金の残高は¥70,000である。

第2問 (10点)

次の[資料]にもとづいて、(ア)から(オ)に入る適切な金額を答案用紙に記入しなさい。定額法にもとづき減価償却が行われており、減価償却は月割計算によって計上する。なお、当社の今年の決算日は2020年12月31日であり、便宜上、帳簿は締め切らない。

[資料]

	取得日	取得原価	耐用年数	残存価額
本社建物	2008年10月1日	¥40,000,000	50年	取得原価の10%
備品A	2017年1月1日	¥ (ア)	6年	ゼロ
備品B	2019年5月1日	¥ 960,000	5年	ゼロ
備品C	2020年8月1日	¥ (イ)	3年	ゼロ
備 品				
1/1	前 期	繰 越	2,400,000	
8/1	当 座	預 金	1,800,000	

備品減価償却累計額	
	1/1 前期繰越 (ウ)
	12/31 減価償却費 (エ)
減 価 償 却 費	
12/31	建物減価償却累計額 (オ)
12/31	備品減価償却累計額 (エ)

**第 3 問** (30点)

次の[資料]にもとづいて、答案用紙の 1 月 31 日の合計残高試算表を作成しなさい。

[資料 I] 2020 年 12 月末の合計試算表

合 計 試 算 表		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
5,623,200	現 金	4,852,200
12,520,000	普 通 預 金	6,652,000
7,560,000	売 掛 金	4,200,000
320,000	前 払 金	100,000
258,000	繰 越 商 品	
10,000,000	建 物	
2,230,000	備 品	
4,560,000	買 掛 金	7,880,000
96,500	所 得 税 預 り 金	128,000
300,000	未 払 金	980,000
	貸 倒 引 当 金	150,000
	建物減価償却累計額	4,000,000
	資 本 金	10,000,000
	繰越利益剰余金	3,638,000
12,000	売 上	7,325,000
3,560,000	仕 入	
2,450,000	給 料	
235,600	水 道 光 熱 費	12,800
156,200	通 信 費	
36,500	租 税 公 課	
49,918,000		49,918,000

[資料 II] 2021 年 1 月中の取引

- 2 日 当期販売分の売掛金 ¥100,000 が貸倒れとなった。
- 5 日 鹿屋商店から商品 ¥333,000 を仕入れ、代金のうち ¥80,000 は注文時に支払った手付金を充当し、残額は掛けとした。
- 8 日 収入印紙 ¥7,800 および切手 ¥1,680 を購入し、現金で支払った。購入時に費用として処理する。
- 9 日 先月に霧島商店に販売した商品 ¥30,000 について、品違いにより返品され、掛代金と相殺する。
- 10 日 先月の給料にかかる所得税の源泉徴収税額 ¥31,500 を現金で納付した。
- 11 日 始良商店へ商品 ¥780,000 を売り上げ、代金のうち ¥500,000 は現金で受け取り残額は掛けとした。
- 14 日 事務用デスク ¥220,000 を購入し、配送料 ¥8,800 を含めた代金を来月末支払うこととした。
- 16 日 未払金 ¥200,000 を現金で支払った。
- 19 日 仕入先に対して手付金 ¥200,000 を普通預金口座より振り込んだ。
- 20 日 得意先より売掛金 ¥700,000 が普通預金口座に振り込まれた。
- 25 日 給料 ¥600,000 の支払いにさいして、所得税の源泉徴収税額 ¥32,000 を差し引き、残額を普通預金口座から振り込んだ。
- 27 日 水道光熱費 ¥55,000 と通信費 ¥33,200 を普通預金口座から振り込んだ。
- 31 日 仕入先に対して、買掛金 ¥1,000,000 を普通預金口座より振り込んだ。

第4問 (10点)

次の各文の( ① )から( ⑤ )に当てはまるもっとも適切な語句または金額を下記の【語群】から選び、正確に記入しなさい。

- (1) 商品¥1,200,000を販売し、代金のうち¥500,000は小切手を受け取り、残額は掛けとした場合に、入金伝票の勘定科目欄に売掛金、金額欄に( ① )と記入されていた場合に、( ② )伝票の金額欄には( ③ )と記入される。
- (2) 簿記上の取引が行われた場合、仕訳帳に仕訳を行い、仕訳の内容を( ④ )に転記する。
- (3) 決算において、損益勘定で計算される当期純損益は、( ⑤ )仕訳により繰越利益剰余金勘定に振替えられる。

【語群】

再	振	替	試	算	表	振	替	総	勘	定	元	帳
補	助	簿	決	算	整	入	金	決	算	振	替	
出		金			¥1,200,000		¥ 700,000			¥ 500,000		

第5問 (30点)

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は2019年4月1日から2020年3月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

2020年3月31日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
732,000	現 金	
3,320,000	普 通 預 金	
3,620,000	売 掛 金	
560,000	繰 越 商 品	
200,000	仮 払 金	
3,500,000	備 品	
2,100,000	車 両	
8,000,000	土 地	
	買 掛 金	1,620,000
	借 入 金	12,000,000
	備品減価償却累計額	1,312,500
	車両減価償却累計額	1,050,000
	資 本 金	3,000,000
	繰越利益剰余金	1,098,720
	売 上	12,500,000
6,230,000	仕 入	
2,450,000	給 料	
650,000	支 払 家 賃	
333,200	水 道 光 熱 費	
625,000	旅 費 交 通 費	
34,020	保 険 料	
77,000	支 払 手 数 料	
150,000	支 払 利 息	
32,581,220		32,581,220

(2) 決算整理事項等

1. 売掛金¥220,000が普通預金口座に振り込まれていたが、この記帳がまだ行われていない。
2. 売掛金の期末残高に対して4%の貸倒引当金を設定する。
3. 期末商品の売価は¥480,000、原価は¥312,000である。
4. 備品および車両について、以下の要領でそれぞれ定額法により減価償却を行う。  
備品：残存価額ゼロ 耐用年数8年  
車両：残存価額ゼロ 耐用年数5年
5. 保険料は毎年1月1日に向こう1年分の保険料を支払っているものである。そこで、前払い分を月割りにより計上する。
6. 支払家賃の前払額が¥50,000ある。
7. 借入金に対する利息の前払額が¥30,000ある。
8. 当期の所得に対する法人税等の額¥360,000を計上する。なお、仮払金は法人税等の中間納付額である。